



# 日本を護る会 レポート

日本の伝統・精神の次世代への継承

40号(令和2年12月)

## 理事長挨拶：

日本を護る会レポート 40号をお届けします。10月にはコロナ事態により延び延びになって居りました沖縄在住の恵隆之介氏が遠路沖縄からお越し下さり、我が帝国海軍軍人が大東亜戦争中に交戦した敵国軍人に示した感激的な武士道精神に基づく行動のお話でした。11月には現在話題になっております「産業遺産情報センター」を訪ねて、明治開国以来、我々の先達達が我が国の産業発展のために果たした御努力の足跡を学びました。12月には海上幕僚監部防衛調整官の一柳 1佐から海上自衛官の方々の我が国の守りの最前線における御苦勞についての生々しく心強いお話を伺いました。

本年はコロナ禍により活動を制限せざるを得ない事態となりましたが、皆様の御協力により何とか年度当初に計画した活動を全て行う事ができました。会員の皆様には新たな気持ちで新年を迎えられ、益々の御健勝と御発展をお祈り申し上げます。

理事長 大橋 武郎

## 第88回定例会

演題「旧敵英国海軍が賞賛する武士道」

講師：元・海上自衛官、評論家、ジャーナリスト 恵隆之介氏

令和2年10月7日(水) 19:00～ 於：としま区民センター

### 旧敵英国海軍が賞賛する武士道

当会は第88回定例会を以下の通り開催いたしました。

日時：10月7日 19時～21時

場所：としま区民センター

演題：旧敵英国海軍が賞賛する武士道

講師：恵隆之介氏

実施予定日は新型コロナ肺炎蔓延の真最中であると想定され開催すべきか否か躊躇されたのですが十分に用心して行うこととし参加者を募集致しました。予定の40人とまでは行きませんでした。25、6人の参加が見込まれ決行いたしました。人数的にはやや不本意ではありましたが沖縄から遠路はるばる来京頂いた講師の熱心なお話聞き入り知られざる佳話に感銘を受けつつ講演会は終了いたしました。



## 略歴等

1954年 沖縄コザ市生まれ。1978年、防衛大学校卒業。海上自衛隊幹部候補生学校を経て世界一周遠洋航海、その後艦隊勤務。1982年退官。琉球銀行勤務。1997年米国国務省プログラムにて、ワシントン、ニューヨークで国際金融、米国軍事戦略等を研修。1999年琉銀退職。現在シンクタンク「沖縄・尖閣を守る実行委員会」代表、保有特許：国内2件、国際1件（食品関係）

主な著書・「昭和天皇の艦長」（産経新聞出版）、昭和天皇天覧（「文芸春秋」平成19年10月号にて、「昭和天皇最晩年のご愛読書」と報道されました。）

・「海の武士道 DVDBook」（育鵬社）、山形県教育委員会中学道徳教材に指定・「海の武士道」（産経新聞出版）、海自幹部教育用図書に指定。その他著書多数。

## 1 講演内容の「あらすじ」と波及効果

- 1) 昭和17年3月1日に起こったスラバヤ沖海戦で日本帝国海軍は連合艦隊の英重巡洋艦エグゼター、エンカウンターなどを撃沈した。この海戦に参加した駆逐艦「雷」艦長工藤俊作中佐は、翌2日にジャワ海（戦闘海域）で多数の敵漂流者を発見したが直ちにこの救助を決断、救助のため艦の停止中に敵潜水艦に攻撃される危険を冒して3時間余を費やし敵将兵全員を救助した。その数、自艦乗員の2倍 440余名に上った。工藤は救助した英士官に英語で「あなた方は日本海軍の名誉ある賓客であり、非常に勇敢に戦った」とスピーチしたという。翌日、バンジェルマシンに停泊中のオランダ海軍の病院船に彼らを引き渡した。
- 2) 工藤は昭和17年8月13日に駆逐艦「響」艦長に就任、11月に海軍中佐に昇進した。引き続き第一線で活躍したが1944年11月から体調を崩し、翌年3月15日に待命となった。戦後は故郷の山形で過ごしていたが1979年に胃癌のため没した。上記敵兵救出の事実は、戦時中の国民世論の反発を考慮して公表されず工藤自身もこのことは家族にも語らなかったという
- 3) 工藤は身長185cm、体重95kgといった堂々とした体躯で柔道の有段者であったが、性格はおおらかで温和であった。そのため「工藤大仏」という渾名がついたという。艦内では鉄拳制裁を厳禁し、部下には分け隔て無く接していた事から、工藤が艦長を務めていた際の艦内は、いつもアットホームな雰囲気満ちていたという。決断力もあり、細かいことには拘泥しなかったため、部下の信頼は厚かった。戦後は海兵のクラス会には出席することもなく、毎朝、戦死した同期や部下達の冥福を仏前で祈ることを日課にしていたという。
- 4) 救助された英海軍士官サー・フォールは戦後外交官として活躍した。定年後来日し艦長の墓に詣りたいと願ったがなかなかその墓所を探り当てることは困難であった。しかし最後に日本人の協力も得て探り当て英海軍代表として墓前に救助され艦上で歓待されたことに感謝を表明した。
- 5) サー・フォールは戦後の国際社会において我が国の名誉回復に尽力した
- 6) 平成20年12月8日（開戦63周年記念日）、赤坂プリンスホテルに於いて駐日英国大使、英国海軍駐日武官参列の下、「海軍中佐工藤俊作顕彰式典」を実施（実行委員長中曽根康弘元総理、経団連、フジサンケイグループ後援）  
元帝国海軍士官、防衛大臣、海幕長、海自士官、海自音楽隊参加。帝国海軍と海自が一体となった。



工藤艦長

## 2. 成果（国内）

- 1) 敗戦とGHQによって断絶された我が国精神文化「武士道」、及び歴史を復旧させた。
- 2) 山形県教育委員会は恵氏の著 DVD「海の武士道」を県下公立中学校の道徳の教材に指定した。GHQによって廃止させられた「修身」（道徳）が60余年ぶりに復活した。その他の著書は神奈川県、埼玉県、東京都で道徳授業に使用され青少年に誇りを与えている。

## 3. 成果（日英関係）

- 1) 戦後長きにわたって日英間の懸案事項であった戦時中の英軍捕虜処遇問題が決着した。英国では在住日本人の一部が「謝罪の会」を組織、日英両国で活動し、徒に我が国の名誉を棄損していた。
- 2) 日英両海軍の絆はより強固になった。結果、日米英三大海軍の関係は不動のものとなり中東、インド太平洋方面に於けるシーレーンの安全確保に寄与している。

#### 4. 終わりに

上述した如く恵氏のDVDは教材として学校現場でも使用され、また「武士道本来のリーダーシップを発揮し戦場に於いて命懸けで敵兵を救助した日本軍人の実話」として収録編集されフジテレビで放映されたとのことです。以下にこのDVDを見て書かれた中学生の感想文1篇を紹介してこのレポートの締めくくりと致します。

「たとえ敵でも困っている人がいたら一人残らず助ける。私にはできないことだと思います。工藤艦長のようにはなれませんが、私も信念を持った人間になれるよう頑張ります。」

会場風景



質疑応答



### 第35回研修会

#### 産業遺産情報センター

令和2年11月17日(火)

令和2年11月17日(火)第35回研修会として東京都新宿区若松町19-1 総務省第2庁舎別館にある産業遺産情報センターを見学した。参加者は総勢30名であった。

受け入れ人数の制約から、前段20名、後段10名ずつの見学となった。

ゾーン1 導入展示は「明治日本の産業革命遺産への誘い」となっていた。同遺産の概要、登録経緯をパネル展示している。各構成資産や各地の産業遺産について写真や動画による解説や登録されるまでの道のり、価値を解説する映像を放映していた。

ゾーン2 メイン展示「産業国家への軌跡」では、揺盛の時代、造船、製鉄・製鋼、石炭産業、産業国家への5つのコーナーで構成され、幕末から明治にかけて成長したプロセスを解説していた。様々な試行錯誤の末に支那や朝鮮が成し遂げられなかった近代化を実現し、欧米の列強に伍す、一等国になったことが展示されていた。ゾーン3 資料室には、閲覧スペースやレファレンスカウンターのほか、言葉や各種デジタル機器が設置されていた。

資料室で、加藤庚子センター長他から現状についての説明を受け、韓国が主張する朝鮮人徴用の展示強要やユネスコ世界遺産センターへの端島炭鉱除外運動などに対し、加藤館長たちが在住者への多くのインタビューや綿密な事実調査を基に、あり得ないことをしっかり反論している旨説明を受け、感謝と激励の気持ちを強く感じた大変有意義な研修であった。

#### <以下は参加者の感想です（敬称略）>

産業遺産情報センターでは、明治日本の産業革命遺産に関する知識を広く学ぶことができました。見学で印象に残ったことはいろいろありますが、造船所、製鐵所、港などを建造する過程について、当時の写真や映像を見ながらご説明をお受けしたことが、特に印象に残ったことです。

19世紀半ばから20世紀初頭までのわずか50年余りの期間で、これほど高度な技術が駆使された建造物の建設が、先人たちによって成し遂げられたことに感銘を受けました。

それとともに、先人たちが国の安泰を案じ、産業国家形成に向けて努力を重ねてきたこと、こうした努力の上に、わが国の今日の発展があることに改めて思いをいたし、先人たちの努力に感謝したいと思いました。

鈴木 優子

17日に訪問した内閣府産業遺産情報センターは1850年～1910年の鎖国時代から幕末開国明治時代の人材育成によって日本が工業立国になる礎「アジアの奇跡」日本の産業革命遺産8県11市23か所が紹介されている施設で、日本史授業では空白の時代で現代に繋がる欧米列強に追いつき追い越せの日本が富国強兵に向かった世界的意義が示されていてとても興味深い施設でした。

資料室は軍艦島羽島炭鉱に関して膨大な一次資料が保管されている、との事でした。

田淵 玲子

今回は、加藤センター長、中村さんらの真摯なご説明で、関係者の皆様方のこのセンターを立ち上げる為のご苦勞が大変だったことがよく分かりました。

反日陣營の卑劣な攻撃に怯まず激さずご対応される皆様のお話を聴いて、本当に感激しました。

何の力も有りませんが、加藤センター長はじめ関係者の皆様方の応援をさせて頂きたいとの思いを強くしました。今回の企画を実行された大橋理事長はじめ皆様に改めて感謝申し上げます。

小笠原 一高

明治維新以来わずか50年で欧米比肩する産業国家を築いた日本の産業革命、中でもエネルギー源としての石炭産業の果たした役割は製鉄・製鋼・造船とともに実に大きい。長崎県端島炭坑、所謂「軍艦島」は三菱会社により日本で初めて開発された石炭採掘場である。これら維新後の産業革命・発展の過程は世界産業遺産に指定され、今年3月に開所した産業情報センターで明治維新以降の日本産業革命・その後の発展史遺産として展示されている。改めて、日本人の類稀な優秀さと実行・達成力の素晴らしさ、日本的家族経営のユニークな偉業を実感させられた。

軍艦島の労働実態について、韓国から強制的非人道的・暴力的・差別との批判があり、韓国人労働者に対する補償問題が、今なお未解決と韓国政府からの不当な要求となっているのは悲しい事である。産業情報センターに勤務されている島で永年勤務された解説者からも全く根も葉もない事との証言も聞いた。

今回の研修では、加藤庚子センター長から直々に熱い解説も頂き、軍艦島の実態は批判されるごときものではなく、産業革命・発展史の中で優れた実績を残して底力となったことを十分に理解できた。

最後になりましたが、永年にわたる加藤庚子センター長のご努力に心から感謝と敬意を表します。

寺嶋 薫

# 第89回定例会

## 演題「自由で開かれた海を護るー海上自衛隊の活動ー」

講師:防衛省海上幕僚監部防衛部防衛課 防衛調整官 一柳公大1等海佐  
令和2年12月18日(金) 18:30~ 於:としま区民センター



### 講師略歴

主要学歴 産業能率大、海上自衛隊幹部候補生学校(平成7年3月卒)、平成6年3月海上自衛隊入隊、平成19年3月護衛艦「ひえい」船務長(呉)、平成20年3月海幕防衛部運用支援課、平成22年3月護衛艦隊司令部幕僚、平成24年3月護衛艦「あまぎり」艦長(佐世保)、平成25年3月統合幕僚監部運用部運用1課、平成28年3月海幕防衛課業務計画班長、平成30年3月第4護衛隊群司令部首席幕僚(呉)、令和元年9月第12護衛隊司令(呉)、令和2年8月現職

### はじめに

本日は、このような講演の機会を頂きありがとうございます。

本日は、「自由で開かれた海を護る」題して海上自衛隊の活動について説明させて頂きたいと考えています。

まず、はじめに、海洋国家としての日本、そして一般的な海上防衛力の役割について説明します。その後、現在、我が国を取り巻く安全保障環境について簡単に触れたのち、海上自衛隊の組織編成、活動状況について説明します。

最後に、海上自衛隊が今後進むべき方向性を示した海上自衛隊戦略指針について説明します。

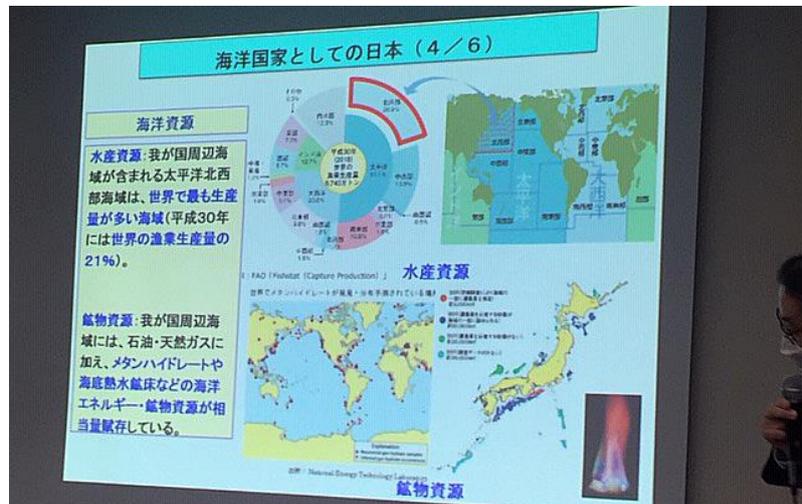
### 1 海洋国家としての日本

我が国は、世界第6位の海上面積、6852の島々、豊富な海洋資源、貿易立国、5つの重要海峡等、様々な特徴を持っており、生存と繁栄を海洋に大きく依存しています。これらのことを念頭に以後の説明を聞いて頂ければと思います。

### 2 海洋の役割

一般的に海洋は、輸送路、情報経路、資源算出、防壁・攻撃経路の役割があるとされており。

また、海上防衛力には歴史的に、外交的役割、警察的役割、防衛的役割の3つの役割を果たしていると言われております。「防衛的役割」とは、これは海上防衛力が本来持っている役割、すなわち他国による侵攻を抑止し、万一事態が生じた場合にはこれを排除する役割のことです。次に「外交的役割」とは、国家の全体的な対外政策の1手段としての役割で、例えば艦艇が親善目的で外国の港湾に寄港することが挙げられます。そして「警察的役割」とは、我が国の海洋



権益を確保しつつ、秩序を維持する役割で、代表的な活動としては海賊対処行動が挙げられます。我が国では海上保安庁もこの役割を担っています。

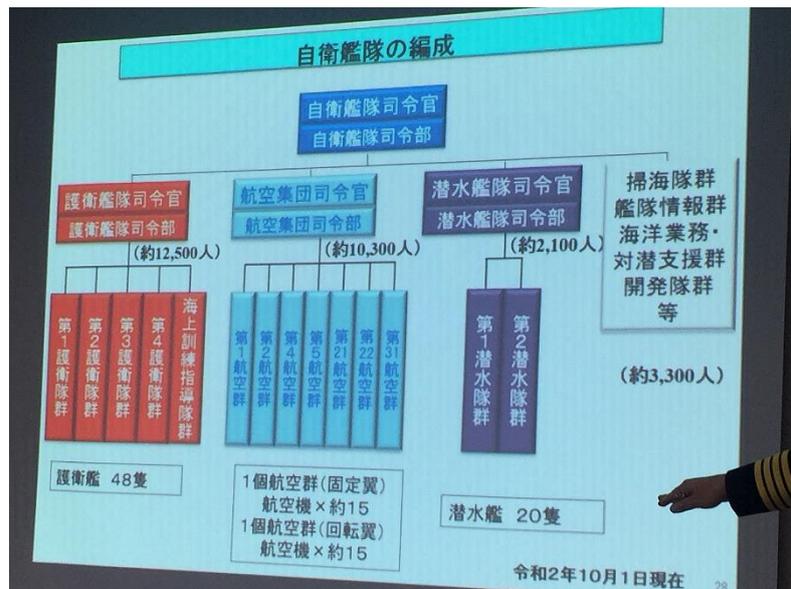
### 3 我が国を取り巻く安全保障環境

まず、中国は、高い水準での国防費の増加を背景に、軍事力を広範かつ急速に強化しています。中国軍はより遠方の海空域において活動する能力をもつことを目指しており、海洋における軍の活動を質・量ともに急速に拡大しています。また、南シナ海では、中国は、ASEAN諸国などと領有権について争いのある南沙・西沙諸島を含む南シナ海においても独自の主張に基づき活動を活発化させています。特に、南シナ海において大規模かつ急速な埋め立て及び軍事拠点化を強行しています。また、今年4月のコロナ禍においても、中国は、三沙市に行政区の「西沙区」と「南沙3区」を新たに設置するなど、一方的な現状変更を継続しています。

次に、北朝鮮は、弾道ミサイル技術と攻撃能力の向上についてです。北朝鮮は、累次の弾道ミサイル発射により、ミサイルの長射程化、同時発射能力、秘匿性・即時発射能力の向上、変則的な軌道等、着実に弾道ミサイル技術と攻撃能力を向上しています。2020年に北朝鮮から発射された弾道ミサイルは、これまで4回の発射が確認されています。

### 4 海上自衛隊の組織・編成

海自は陸空自と並んで、防衛大臣の指揮監督下であり、大臣はそのスタッフ組織である海上幕僚長を長とする海上幕僚 監部の補佐を受け、部隊の指揮を執ります。最も大きな部隊であり、海域を特定せず機動的に艦艇・航空機を運用する自衛艦隊、区域の警備そして自衛艦隊の支援にあたる5つの地方隊、航空機の搭乗員を養成する教育航空集団、艦艇の乗組員を艦上で教育する練習艦隊、陸上で各種術科から戦略に至るまでの事項を教育する各学校、それに後方・補給を統括する補給本部等が主な部隊・機関です。艦艇や航空機等のいわゆる「乗り物」のほとんどは自衛艦隊の隷下であり、単純化すると、水上艦艇は護衛艦隊に、航空機は航空集団に、潜水艦は潜水艦隊に所属しています。



自衛艦隊はその隷下に護衛艦隊、航空集団、潜水艦隊、それに掃海隊群、情報業務群等、海上自衛隊の実力部隊のほとんどを置いて います。護衛艦隊は水上艦艇の部隊であり、4つある護衛隊群は艦艇8隻で構成され、新鋭の艦艇を集中的に配備しています。「いずも」型護衛艦やイージス艦もここに置かれています。令和2年3月末で、護衛艦は48隻ですが、今後増勢し、最終的には54隻態勢を目指しています。航空集団は固定翼哨戒機や回転翼哨戒機を中心とした部隊です。潜水艦隊は文字どおり潜水艦を中心とする部隊であり、2個潜水隊群により構成されています。ただし、潜水艦は基本的に単艦で運用することとされているため、群や隊と言ってもその性格は水上艦艇とは異なります。現在、潜水艦は20隻、こちらも増勢中であり、最終的には22隻態勢となる予定です。

### 5 海上自衛隊隊員の勤務について

海上自衛隊員の勤務について、今回は代表的な艦艇部隊の一日をご紹介します。艦艇では、武器や甲板を担当する「砲雷科」に属する職種、船の航海や情報業務を担当する「船務・航海科」に属する職種、船のエンジンや消防等の役割を担当する「機関科」に属する職種、食事や補給、衛生を担当する「補給・衛生科」に属する職種があり、それぞれが勤務についています。艦の出港中は、各種訓練のほか、昼夜を問わず、交代で当直勤務に就くことになります。

## 6 海上自衛隊の活動

海上自衛隊の日々の活動は国家安全保障戦略及び防衛計画の大綱を受けて導出した3つ戦略目標を達成するために実施しています。まず第1の目標である「我が国の領域及び周辺海域の防衛」を達成するための活動についてです。海上自衛隊は、24時間365日、今まさにこの瞬間も、護衛艦、哨戒機、潜水艦等により、常時継続的な警戒監視を行っています。特に東シナ海では中国海軍艦艇等の我が国領域への近接に備え、海上保安庁等とも協力しつつ、警戒監視にあたっています。次に、第2の目標である「海上交通の安全確保」の達成のための活動についてです。我が国の海上交通路は世界中に広がっていますが、中でも主要な海上交通路はいわゆるオイルルートと呼ばれるもので我が国にとって死活的に重要です。そのため、我が国は、「開かれ安定した海洋」の維持・発展に向け、主導的な役割を果たしており、海洋安全保障の取り組みを推進しています。具体的にはソマリア沖・アデン湾での海賊対処行動や、それらの活動の進出・帰投時に海上交通の安全確保に資すると考えられる国との関係強化を企図し寄港を実施しています。次に、3つ目の目標である「望ましい安全保障環境の創出」を達成するための活動についてです。1つ目は、海上幕僚長と他国海軍トップとのハイレベル交流やそのスタッフによる幕僚協議です。これらを行うことにより、相互理解の促進、協力関係の構築を図り、不測事態を事前に予防するとともに、より効果的な活動を行っていく素地を築きます。2つ目に自然災害に対する救援や支援により新たな脅威の発生を防止するための国際緊急援助活動です。そして3つ目は相手国の能力・関係を強化する防衛装備・技術協力／能力構築支援活動があります。

次に、新型コロナウイルスの感染拡大の中での連携の強化について説明します。本年2月以降、新型コロナウイルスの感染拡大により、護衛艦の外国港湾への寄港取り止めなどの影響が生じています。しかし、このような情勢下においても中国は、東シナ海、南シナ海の一方向的な現状変更及び既成事実化を進めています。海上自衛隊としても、洋上で会合し、訓練を実施できるという海軍種の特徴を活かし、様々な訓練・任務を通して、各国海軍との連携を強化するとともに、我が国のプレゼンスを顕示しています。また、コロナ禍において対面での交流が制限される中においても、米英豪をはじめとする各国海軍トップ等とのVTCを活用した諸外国との防衛交流を積極的に実施しています。

## 7 海上自衛隊戦略指針

我が国を取り巻く安全保障環境は、これまで以上に速いスピードで厳しさと不確実性を増しています。こうした情勢を受けて、平成25年には「国家安全保障戦略」が、平成30年には「平成31年度以降に係る防衛計画の大綱」が策定されました。これらの指針を受けて、真に実効的な防衛力として、更なる能力と活動を追求するための取組の方向性を示すため、この度「海上自衛隊戦略指針」を策定しました。本指針では、まず、海上自衛隊が達成すべき3つの目標、①我が国の領域及び周辺海域の防衛、②海上交通の安全確保、③望ましい安全保障環境の創出について述べています。本指針の概要について広く一般隊員まで理解できるように海上自衛隊戦略指針パンフレットを作製しております。このパンフレットは海上自衛隊HPからダウンロードできますので、ご確認頂ければと思います。

### ☆講演後の質疑応答風景

20分間の予定であったが、活発な質問が数多く出され、時間が倍近くになった。参加者が海洋国家日本における海上自衛隊に期待することがいかに大きいか理解できる貴重な時間であった。



## 事務局からのお知らせ

- \* 本年度も早や半分が過ぎようとしています。コロナ禍に於いても「日本を護る会」は積極的に活動が進められていますが、平時のように大勢の会員の参加が叶わない状況下、皆様のご理解、ご協力に事務局からも感謝を申し上げます。
- \* 重要な課題である認定取得のための都庁への申請は11月に無事行われました。来年2月には都庁職員による訪問を受けて詳細の監査を受けることになります。現在そのための準備が行われています。
- \* 「日本を護る会」は皆様の会費によってどうにか活動を続けることができているというのが現状です。本年より各会員に直接メールの通知にて会費お支払いの喚起をさせていただいております。何卒、ご理解、ご協力をお願いします。

事務局ではサポートをして頂ける方を探しています。どんなことでもお手伝いが頂ければ大変助かります。そのご意思がおありの方は是非事務局にご一報ください。ホームページ、フェイスブックの扱いなどが得意な方は大歓迎です

### 今後の予定

#### (1) 初詣

- 日時： 令和3年1月9日(土)  
場所： 芝大神宮  
註： コロナ禍への対応で神社の受け入れ人数に制限があることから今回は役員のみ参加とし会員の皆さんを代表して参拝をします。

#### (2) 第90回定例会

- 日時： 2月20日(土)  
場所： としま区民センター  
講師、演題を検討中(近々決定予定)

#### (3) 第91回定例会

- 日時： 3月13日(土)  
場所： としま区民センター  
講師： 外務省 中国・モンゴル第一課長  
(演題は未定)

原則、メールにてお申し込み下さい。

### 新年度年会費お振り込みのお願い

1. 機関誌をEメールで受け取る会員 2,000円
  2. 機関誌を郵送で受け取る会員 4,000円(2,000円+送付料2,000円)
- 当会の健全運営に資するため御寄付(一口1,000円)を戴けますことは、いつでも大歓迎です。ご意思のある方は事務局までEメールにて承ります。

### 新会員のお誘い

当会では、お友達など会の趣旨に賛同していただける会員を広く募集致しております。

#### 年会費お振り込み先

- 各口座名義 特定非営利活動法人 日本を護る会
- ① ゆうちょ銀行  
店番号 038 普通預金 記号10380 番号92589171
  - ② 三井住友銀行  
店番号 516 普通預金 口座番号 74410697

日本を護る会・レポート 第40号 令和2年12月発行

編集発行: 特定非営利活動法人 日本を護る会

ホームページ: <http://awake-japan.sakura.ne.jp>

E-mail: [awake-japan@googlegroups.com](mailto:awake-japan@googlegroups.com)